

明治三十四年七月

訂正
增補

日本社會事彙

合名
會社
經濟雜誌社出版

日本社會事彙序

吾邦上古之為治以皇祖神隨
之道自成封建之風及通使於
唐漸模彼制政體一變佛法之
入亦大變政俗及至中世皇綏
鮮紐武門執權數百年明治維
新王政復古於是乎汎與海外

諸國通信互市采彼長補我短
制度文物殆將超駕乎前古矣
其間二千五百有餘年治亂污
隆更變不一政治風俗百般事
實亦難悉記藝苑操觚之士欲
就一事知其源流沿革非繙數
十種之書不得窺其梗概終至

於發望洋之歎往昔管公著類
聚國史類別臚列甚便搜檢然
事止于六史以上近世寺島某
有和漢三才圖會略之著一倣
顧玉峯之體例凡天地間之事
物蒐錄不漏然至政治風俗之
沿革猶闕如也友人田口鼎軒

世務鞅掌之餘慕一大有用之
書凡吾建國以來政治制度文
學法律農商工藝風俗歌舞聲
曲童謠無大無細薈萃網羅詳
其源流沿革名曰社會事彙徵
余序言余一覽之起而歎曰偉
哉業也斯書一出不復要閱汗

充之書而事實沿革一閱得其
要其益藝苑者何如也不惟益
藝苑其有功于一世非淺鮮也
鼎軒人傑也克創人難為之業
撰世未有之書曩著曰本人名
辭書余敘之推重甚至今於斯
書亦不得不極力推重焉雖然

鼎軒春秋鼎盛才學日長
使余推重不已者後將有益
不可測者也夫

明治二十三年八月

敬宇中村正直撰



柳澤信大書
信大

例言

一此書上古より今代に至るまで、我國に現在せる事物の源流沿革の概略を統記す、名けて日本社會事彙といふ、

一此書科目の門部及び目次を建てず、其名稱の頭字を五十連音に排叙す、例へば「アカ、カ、キ」を觀むと欲せば、アカの條を開き見るべし、其排列の序は、曩に刊行せし日本人名辭書の索引順次に従ふ、

一此書事物の名目は、勉めて現今普通の稱呼に従ふ、また漢字音を以て稱ふるものも鮮からず、依てイウ、ユウ、ハウ、ホウ、カウ、コウ、クワウ、チャウ、チヨウ、テウ、等の如き呼法類似の韻は、勉めて正音に従て記載す、故に此部に見えざるものは、彼部を搜索せむことを要す、

一此書事實に依ては煩冗を厭はず蒐録し、且ま、古圖等をも挿入せり、これ古書記する所、口碑傳ふる所、星霜を経るに隨ひ、往

往事蹟の湮滅せむことを恐れてなり、

一此書編纂の例則を設けず、故に年號を天皇諡號に係けしもあり、又直に年號のみを記せしもあり、引用書も著作年代の前後に拘らず、其事實を證するの便に由て前後引用するもの鮮からず、又引く所の書、多く原文を摘録すと雖も、中には其意を采りて譯出せしもあり、體例必すしも一樣ならず、これ官撰の書の例格謹嚴なるものと自から異なる所以也、

一此書諸書を引き、諸事實を證するの際、敢て妄りにこれか論斷臆測を加へず、これ看む人の取捨采擇に任せむとてなり、
一此書二千五百餘年間の事物顛末を網羅せむと期す、其事業も極めて大なり、一二年間の日子を以て克く濟し得る所にあらず、況や民間材料の好書に乏し、故に脱誤も亦多かるべし、そは博雅の補正を乞はむとする所なり、

明治二十三年七月

編者誌